

## 「滋賀らしいCCRC」の検討状況について

人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略では、「滋賀らしいCCRCについて、市町や経済界、大学等と連携しながら検討」するとしており、県とともに具体的な検討を進める場として「滋賀らしいCCRC」協働検討会議を設置し、以下のとおり検討を進めているところである。

### 1 協働検討会議の設置目的

「滋賀らしいCCRC」を推進するため、その目指すべき方向性や実現可能性等について検討し、施策の実施主体となる市町や民間の取組が進むよう機運醸成を図る。

### 2 会議の構成メンバー

別添のとおり。※毎回、市町企画担当部局等の職員が傍聴

### 3 これまでの検討状況

#### 第1回【平成28年6月28日(火)】

- ・講演：「生涯活躍のまち」(日本版CCRC)の実現に向けて  
講師 株式会社三菱総合研究所主席研究員・原野敏幸氏
- ・「滋賀らしいCCRC」の目指す方向性について

#### 第2回【平成28年8月29日(水)】

- ・市町アンケート調査結果について
- ・同調査結果を踏まえた目指す方向性について

#### 第3回【平成28年10月19日(水)】

- ・講演：「ごちゃまぜ」のまちづくり -キーワードは交流人口-  
講師 社会福祉法人佛子園理事長 雄谷良成氏
- ・県内ニーズ調査結果について
- ・これまでの検討を踏まえた滋賀らしい居場所づくりについて  
～中間まとめ～

※ この他、8月30日(火)には、県企画調整課員が、講師の依頼を兼ねて社会福祉法人佛子園理事長 雄谷良成氏を訪問し、「ごちゃまぜの居場所づくり」の重要性について示唆をいただくとともに、廃寺を再活用した「三草二木西園寺」や駅の待合室を活用した「美川37Cafe」、さらには「シェア金沢」などの視察を実施

#### 4 「中間まとめ」の概要

##### (1) 「滋賀らしいCCRC」の検討方針

本県は、他の都道府県と比べると人口減少スピードが緩やかであり、今後、本格的に高齢化が進むと予測されている地域である。

このような人口動向を踏まえると、「生涯活躍のまち（日本版CCRC）」制度で打ち出された都会からのアクティブ・シニアの呼び込みよりも、今後増加する県内の高齢者が健康で生きがいを持って生活できる仕組みづくりを第一として「滋賀らしいCCRC」を検討するべきと考える。

また、「生涯活躍のまち」制度は、市町および民間事業者が取組の主体となるものであることから、市町等における今後の検討の参考としていただけるよう、政策の方向性や実現に向けたアイデアをまとめることに主眼を置く。

##### (2) 市町の課題認識

本年7月に実施した市町向けアンケート調査結果からは、「コミュニティの再生・強化」が共通の課題認識として浮かび上がってきた。

また、人口減少・高齢化が深刻な地域では担い手の確保が課題となっている一方で、人口減少・高齢化が切迫していない地域では、来るべき高齢化に備えるための多様な地域資源の連携に苦勞されていることが分かった。

##### (3) 市町アンケート調査結果を踏まえた目指すべき方向性

コミュニティの再生・強化という視点を重視しつつ、高齢者をはじめ、地域住民の健康長寿・生涯活躍を推進するための拠点として、日常的に集い、交流できる「交流の場・居場所」のあり方について検討する。

併せて、地域の抱える課題に応じ、担い手確保のための移住促進や独居世帯の見守り・多世代同居等を目的とした地域内での住み替えなどをオプションとして検討する。

##### (4) 県内住民向けアンケート調査から得られる示唆

今後の生活への不安要素としては、自分や家族の健康、家計（生活費がまかなえるか）、親や配偶者の介護等が多く、老後はゆっくりと自らの趣味等を楽しみたいという意見が多かった。

現状における地域との交流機会としては、自治会活動以外の活動は低調だったが、今後の参加意欲としては、地域の歴史・文化の学習体験、健康づくり・スポーツのほか、就労の場を求める意見も多かった。

地域における「交流の場・居場所」の利用については、「ぜひ利用してみたい」「利用してもよい」との回答が66.4%あり、一定のニーズがあることが確認できた。

##### (5) 中間まとめ

本県が目指す「滋賀らしいCCRC」とは、県外からの高齢者の呼び込みを主たる目的とするのではなく、地域の高齢者の健康長寿と生涯活躍実現のために、高齢者を中心とする多世代の住民が日常的に集い、交流することの

できる「交流の場・居場所づくり」を進め、もって、地域の活性化につなげていくための施策とする。

施策の具体化に当たっては、地域で既に実践されている活動を掘り起こし、必要に応じて異なる分野の活動とうまくマッチングさせることで、さらなる魅力向上につなげていくような工夫が重要である。

さらには、高齢者だけでなく、子ども・若者や障害者、子育て世代など多様な人々が気軽に集うことで、地域に「化学反応」が起き、地域経営の担い手育成につながるなど、コミュニティの再生・強化に向けた新たな取組が生まれるような交流の場となることが望ましい。

## 5 今後の予定

### (1) 協働検討会議の日程

#### 第4回【11月24日(木)】

- ・講演：(仮)住民との連携

講師：コミュニティネットワーク協会副会長 近山 恵子氏

- ・県外ニーズ調査結果について
- ・滋賀らしい居場所づくりについて

#### 第5回【12月20日(火)】

- ・まとめ

### (2) 今後の議論の方向性

各市町が検討を進めていく際の参考となる「交流の場・居場所づくり」のアイデアについて検討を進めていく。

具体的には、①コミュニティの再生・強化につながるような「交流の場・居場所」のあり方、②魅力的な「交流の場・居場所」とするための連携・協働のアイデア、③「交流の場・居場所」の担い手イメージ、の3点を中心とする。

協働検討会議での検討結果をもとに、年度内に県としての最終報告書をまとめることで、市町における施策化に向けた検討を後押ししていく予定である。

「滋賀らしいCCRC」協働検討会議 構成メンバー一覧

	氏名	所属団体 役職名	分野
1	青木 勝治	近江八幡市総合政策部長 兼政策推進課長	市町
2	植西 正寿	滋賀銀行営業統轄部参事役	金融
3	太田 清蔵	特定非営利活動法人結の家 代表	医療福祉
4	尾笈 寛行	大津市平野学区自治連合会 事務局長	まちづくり
5	(座長) 神部 純一	滋賀大学社会連携研究 センター教授	教育・生涯学習
6	川端 均	おうみ富士農業協同組合 食育園芸部部长	就農
7	川村 千恵	いざない湖北定住センター	移住
8	小林 正彦	滋賀経済同友会事務局長	経済界
9	杉浦 仁美	立命館大学 スポーツ健康科学部講師	健康づくり
10	轟 慎一	滋賀県立大学 環境科学部准教授	都市計画
11	中島 克也	滋賀県シルバー人材センタ ー連合会次長	高齢者活躍
12	宮本 麻里	子育て応援カフェLOCO 代表	

50音順・敬称略